



## 宮司プレス 第二十五号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十年六月十三日

宮司の柴田です。宮司プレスの発行を始め

て丸二年がたちました。やはり今の社会

情勢の中で、「ニコニコ」くち「ニコニコ」、

マスコミによって情報を発信していく必要

性を感じ取り組んだのです。

ちなみに、「プレス」とは、英語で印刷・

出版・新聞という意味ですし、また、場所は

英語でプレスといいますが、宮司の居場所

や素晴らしい場所「まほろば」にも通じる思

いで「宮司プレス」と名付けました。

六月は水無月です。

別名水無月といいますが、水が無いから水

無月ではありません。無は「な」で、

古語の連用形ですから、現在は「の」に当た

ることはです。ですから、水の月という意

味です。

また、田植えの行事が無事にすみ、皆仕戻

(みなしつく)した「みなしつくしづき」

から転じて水無月になったなど諸説ありま

す。

父である先代典行宮司が、行く水の再び

還らぬ如く、命がむなしくなったのは三年前の六月二十日のことでした。

水は、穏やかに船を運ぶ事が出来ませんが、

嵐を呼びひっくり返す事も可能だし、水がな

くなると座礁します。やはり、今こうして

御奉仕ができるのは、たくさんのおかげ

であり、船の心である感謝の心、水の心とも

いすべき謙虚な心を忘れずに、「神様の宿る

心」、その清らかな気持をいつもたくさんそ

そいで生活したいものです。

渠(きよ)成(なり)りて水到(みずいた)

る、これは中国の故事(こじ)です。

渠とは大きな溝の事でありますが、この故

事の意味は、昔大きな溝を作ったけれどもな

かなか水が流れてこない、ある日大雨が降っ

たら、乾いた田を美田(びでん)にかえるよ

うな、滔々(とうとう)とした清らかな水の

流れが出来たという事です。

この清らかな水の流れをつくるためには、

やはり、大自然の恵に感謝をし、神を敬い祖

先を尊ぶ心を忘れずに生活することが大

切だと思えます。

今、世界の世論の中心は、「人権」と「環

境」です。

中国のチベットの問題や世界各地で民族

間の紛争が耐えません。

地球環境も、温暖化の問題や異常気象等、

進みすぎた文明が、大自然の正しい循環を邪

魔をして、阻害する事によってもたらされた

宿命的な危機や複合的な危機に直面してい

ます。「ポイント オブ ノー リターン」

が迫っています。環境の問題に限っては、

もつ後には戻れないのですね。全世界の人

類の英知を結集しなければならぬ状況で

す。

大自然の恵に感謝し、神様や祖先を尊び、

そして今を生かされて生きている事におか

げさまという気持ちを大切に、自然と共に神

様祖先と共にそして家族や地域の人々と共

に生きていくのが神社神道であります。

「神社」の「社」は、森の事でありまして

境内の緑の維持、植林、植木の手入れ等、森

敵なる「社」になるよう努力を傾けたい所存

です。露流れる朝心地よく、早苗がさわや

かに風に揺らぐこの季節に私は、父から受け

継いだ第二十一代宮司として重みを感じな

がらも謙虚な気持ちを忘れずに、護持運営に

鋭意努力申し上げたいと思います。

五月の祭典行事の報告

塩釜神社例祭 \*五月六日



早起会総会 \*五月十一日



福浦金刀比羅宮例祭

\*五月十七日、十八日



責任役員常任総代会開催 \*五月二十四日

敬神婦人会総会 \*五月二十五日

奉賛会役員会開催 \*五月二十九日

境内のツツジも満開でした



六月の祭典行事予定

海士郷恵比須神社例祭 \*六月十日

貴布禰稻荷神社例祭 \*五月十四日

朝粥会 \*五月二十一日

どなたでも参加できます、午前六時半よ

り祈願祭、宮司講話 お粥を食べます

大被式 \*六月二十日

六月の宮司の予定

神職大会に参加

\*六月五日、山口市へ出張

山口県神社庁下関支部三役会出席

\*六月五日

当宮維蘇志会六月例会出席

\*六月六日 境内の草刈作業の後に

例会行事

山口県敬神婦人連合会総会に当宮敬神

婦人会役員と参加

\*六月九日、山口市へ出張

山口県神社庁協議員会に出席

\*六月十三日、山口市へ出張

直階講習会講師打合せ、祭式研修会に参加

\*六月二十日

当宮にて開催のリバーズ彦島の六月例会

にて講話 \*六月二十日

中国地区の氏子青年会研修会に当宮維蘇

志会役員と参加 \*六月二十一日、二十

二日、出張方面

市PTA連合会企画委員会に出席

\*六月二十四日

玄洋中PTA常任委員会に出席

\*六月二十五日

当宮奉賛会総会出席 \*六月二十九日

萩市阿北総代会にて講演

\*六月二十九日